

うわ！ いい匂い〜

子ども達も ランチね！ お茶してく？

朝、花咲いた わね！

おいちゃん！ 水やり ありがとう！

先生！ ゴーヤ獲って もいい？

鬼だれ？

弟は給食 時間か〜

中学行ったら 部活何する？

あれっ！ シューズ 忘れた！

小さな魚 いた！

待てーっ！

夜はママさん バレーボール だっけ？

キャッチ ボール しよう！

22.9 cm × 13.1 cm = 299.99 cm²

$$22.9 \text{ cm} \times 13.1 \text{ cm} = 299.99 \text{ cm}^2$$

This diagram illustrates the proposed school building and its integration with the surrounding environment. Key features include:

- Existing School Building (既存校舎):** A large grey structure at the top.
- New School Building (新校舎):** A multi-story building (2F, 3F, 4F) with a central courtyard, shown in orange and green.
- Setback (セットバック):** Indicated by dashed lines and numbers 3, 5, and 16.00, showing the building's distance from the road.
- Surrounding Facilities:** Includes a Town Center (町民センター), a Pool (プール), a Gymnasium (既存体育館), and a Residential Area (住宅地).
- Landmarks and Features:** A Sakura tree (既存のサクラ), a Spring/Autumn shadow problem area (春秋分の日影 影管問題なし), and a Space for Community Connection (地域とつながるスペース).
- Orientation and Access:** A compass rose shows North (N), and arrows indicate the Main Gate (正門) and South Gate (南門).
- Environmental Integration:** A green area at the top right is labeled "Utilizing the river environment for water and green learning" (川近くの環境を活かした 水と緑の学習園).
- Proximity to Residence:** A red box highlights the proximity to the residence, noting the need for a setback (近隣に配慮し セットバック) and ensuring space between the residence and school (住宅と校舎の間に スペース確保).

●記憶を継承する「みんなの母校」の風景／●にぎわうカフェのような多目的ホール

●博物館のような特別教室エリア

phase 1 新校舎建設

・仮設校舎無しで本館・新館を使いながらの工事。敷地南西半分を工事エリアとし、南門を工事用ゲートとします。運動場を可能な限り広く確保。

phase 2 旧校舎解体

・新校舎へ引越後、本館・新館を解体。敷地北東側を工事エリアとし、正門を工事用ゲートとします。エリアを明確に分け、学校運営と安全性に配慮。

phase 3 外構整備

・旧校舎解体後、駐車場などの外構を整備。この駐車場配置は将来の体育館建て替え時の工事エリアとすることを想定。

phase 4 工事完了

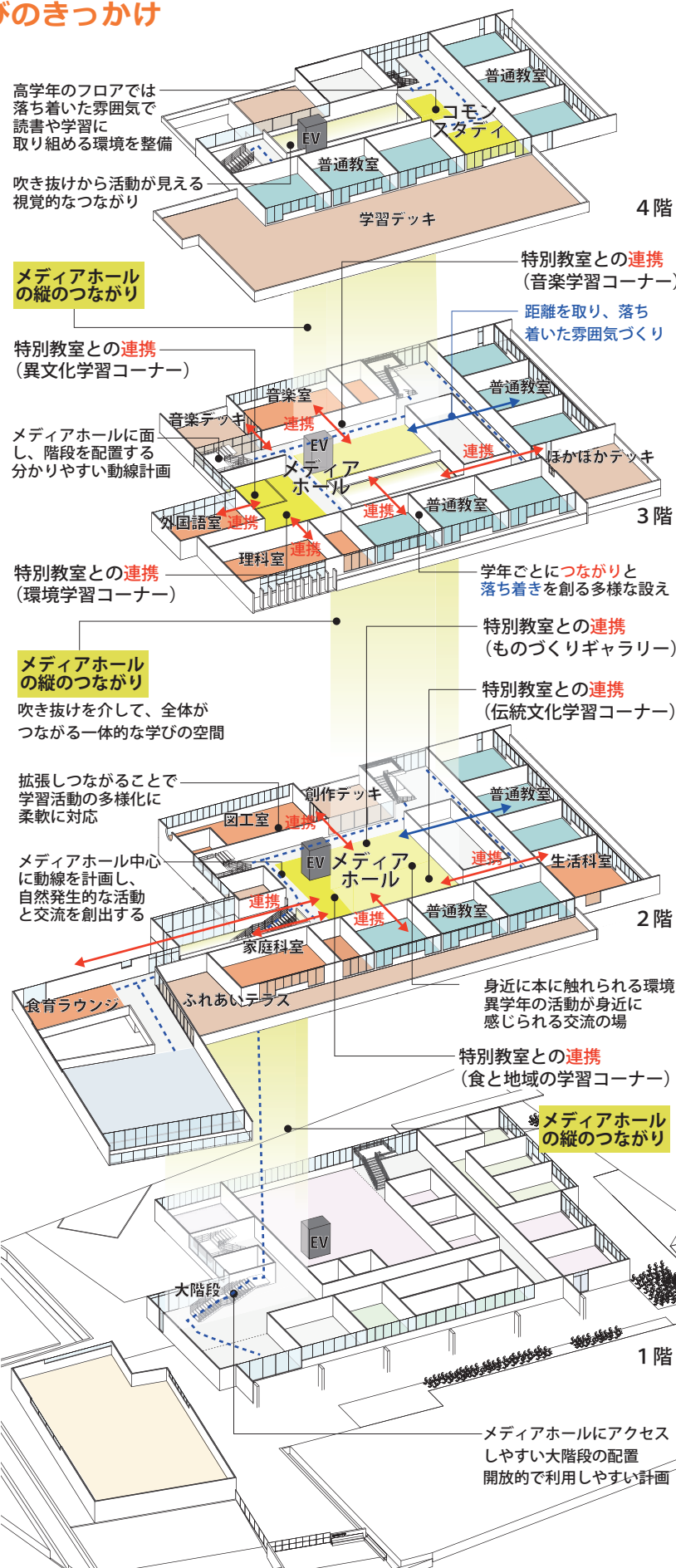
・外構整備が終わると工事完了。敷地を有効活用できるような全体計画で海田東小学校を現在から未来へつないでいきます。

- 新体育館を建て旧体育館を解体した後、駐車場の一部を正門南側に配置換えするだけで運動場を整形に確保することが可能です。
- 新体育館と校舎のつながりも最短となる将来配置計画により、使いやすく魅力的な学び舎『みんなの母校』は未来へと持続し続けます。

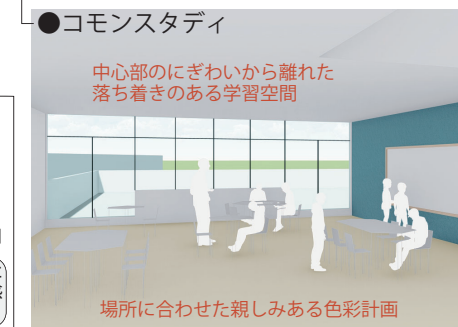
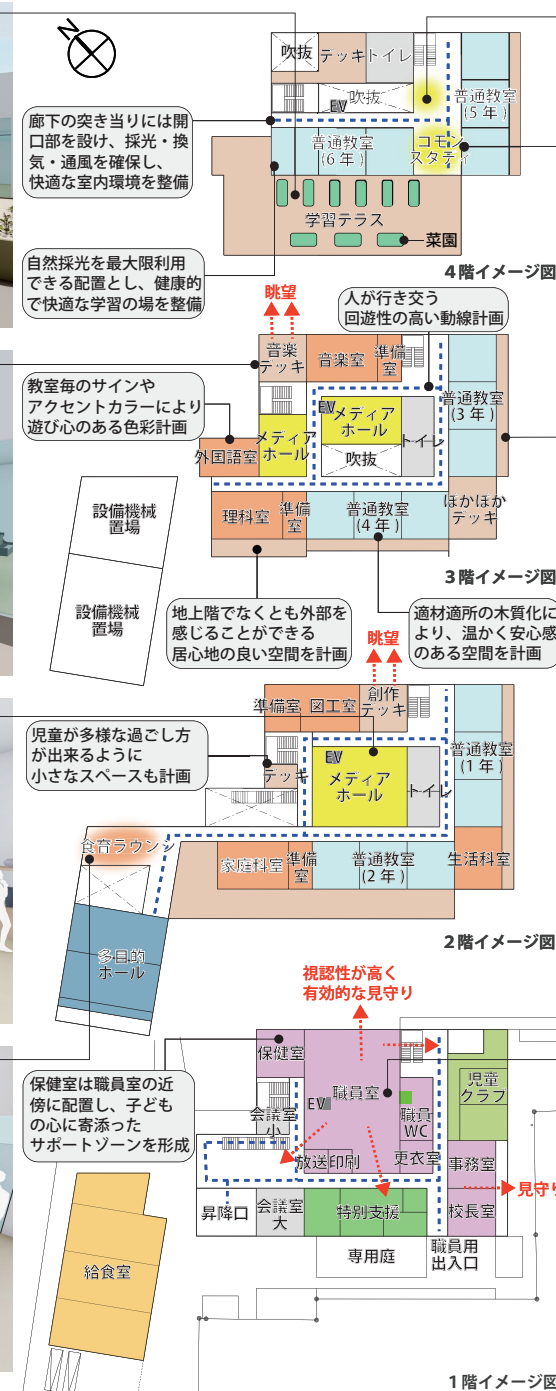
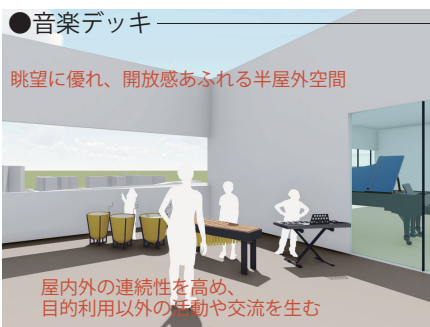
メディアホールの中心性が生み出す学びのきっかけ

-
- 昇降口につながる大階段の様子

●昇降口につながる大階段の様子



●学習テラス



●瀬野川目下橋方面からのアプローチ／学校のにぎわいと地域生活が溶け込む様子のイメージ

- ・多言語表記やピクトグラム、点字表記等、様々な利用者に配慮したサイン計画とします。
- ・床仕上げについて、仕上材の切替、色相や彩度調整により、視認性を高め、視覚障がいにも対応できる計画とします。
- ・特別教室ごとに特色あるサインを計画し、楽しくて誰もが分かりやすい、インクルーシブな学校を整備します。

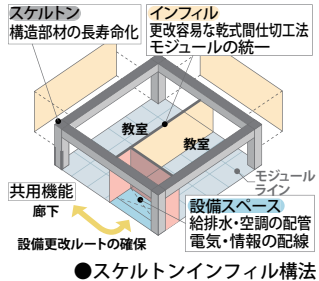
建替後の建物配置・平面計画に関する提案 及び 建替えのプロセス（新築、解体、移転等）に関する提案、「学びの中心となる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備」、「快適で温かみのある空間の整備」、「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画、サイン計画」、

「長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備」 及び 「シビックプライドを育む施設整備」 それぞれの提案並びに 全体事業期間の短縮に関する提案 及び 全体事業費（イニシャルコスト）の圧縮に関する提案

長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備

《将来の教室数の変化に対応するSI構法》

- スケルトンインフィル（SI）構法により、変性の高い構造計画とします。必要な耐震壁は階段や水廻り周辺に配置し、教室を仕切る壁を乾式工法とすることで、時代のニーズによる教室数や教育内容の変更等にも柔軟に対応できる、フレキシブルな校舎とします。



《目と手が行き届き、容易に近づける維持管理計画》

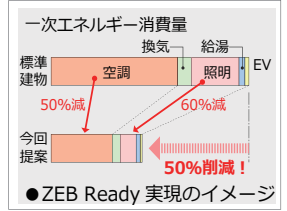
- 各階にバルコニーや屋上を設けることで、外部のメンテナンスが安全に実施できる計画とします。
- 数多くの長寿命化改修実績やノウハウを活かし、目が届きやすい点検箇所、掃除が容易なディテール等を取入れます。

《省エネルギー建物は維持管理しやすい》

- 省エネ建物とすることで維持管理がしやすい施設整備を行います。エネルギー消費を少なくすることで設備機器への負担を軽減します。また高効率な照明や空調は故障やトラブルが少なく長寿命であり、使用状況をモニタリングすることで、適切なメンテナンスやトラブルの早期発見が可能です。

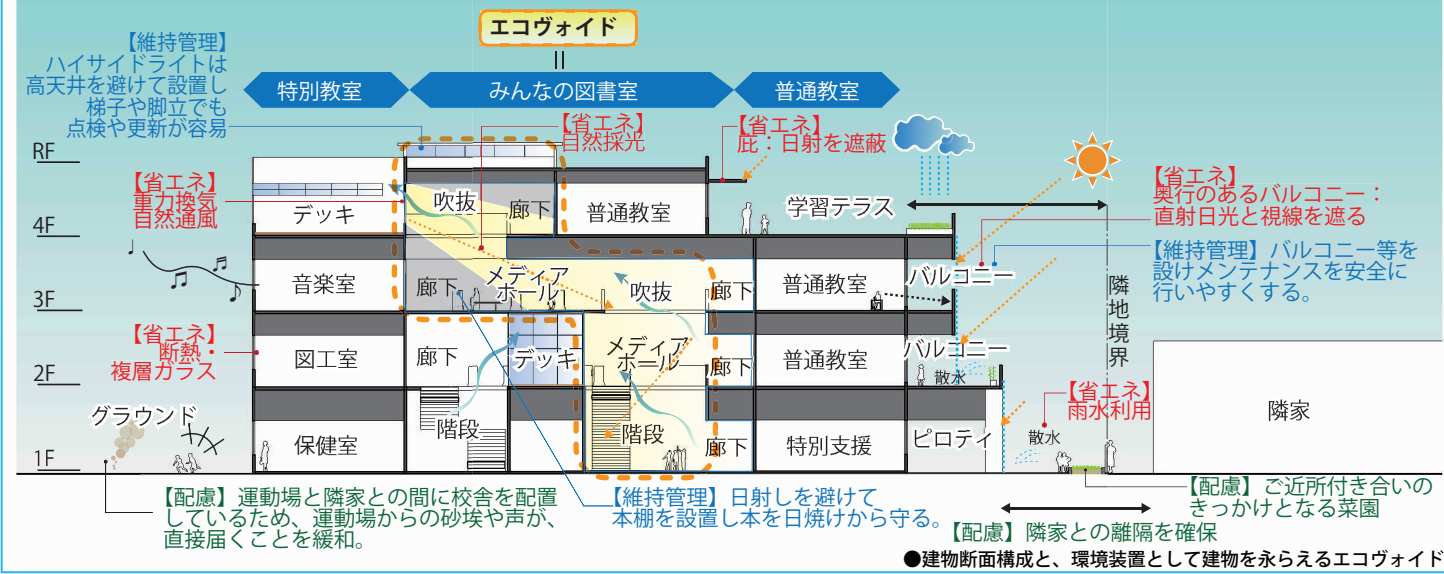
《費用対効果の高いZEB Readyの導入検討》

- ZEB プランナーの知見を活かし、弊社実績から、より費用対効果の大きい環境配慮設計を実施します。
- ZEB 化ロードマップに沿い、項目別の目標数値を想定し、合理的でバランスの良い環境計画を実現します。



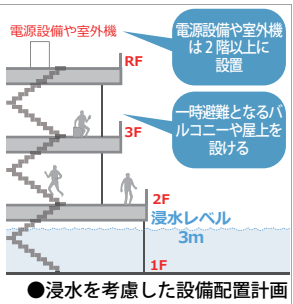
《環境装置として建物を永らえるエコヴォイド》

- 海田東の夏は暑く冬は温暖で、春・秋はさわやかで過ごしやすい気候の特色を活用した建物とします。校舎の中央に配置したエコヴォイドは、メディアホールを中心に吹抜で各階をつなぎます。校内の様々な活動を映し出すショーケースであると同時に、太陽光や地域の風を取り入れる環境装置（自然採光・自然換気）としても機能し、省エネルギー建物を実現します。



《災害に強い安心・安全な地域拠点》

- 敷地は河川近くに位置し、浸水の可能性があるため、機能維持を目的に電源設備や室外機は2階以上に計画します。
- 安全な一次避難場所となるバルコニーや屋上を各階に設ける計画とし、円滑な避難を可能とします。

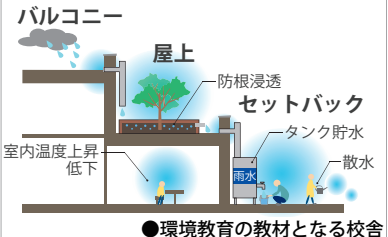


《冗長性をもつ設備スペース》

- PS や EPS は共用部から点検可能な位置に配置し、将来の情報技術の進化などによる設備の増設、更新しやすさを考慮して、予備スペースを見込んだ計画とします。
- 設計段階で、BIM を用いて更新ルートや空間の大きさを把握し、維持管理メンテナンスの容易さを検討します。

《学校生活に浸透させる、見える化による環境教育》

- 日当たりのよい南側に対してセットバックした建物形状であることを活かし、降雨時の排水の流れを見える化します。
- 排水経路近くに植栽を配置し、タンク貯留などを併用することで、植栽や花壇への水やりに、雨水を再利用します。上水利用量も抑制できる環境教育教材とします。



《バックヤードをつくらない日常的な維持管理》

- 防災倉庫や準備室などの収納を視認性の高いしつらえとします。目に触れることが日常になると、欠損や不具合に気づきやすく、美観意識やいたずら防止にも効果の高い維持管理が可能になります。関連メディアと合わせて子どもの学びを活性化する「教科のエリア」をつくります。



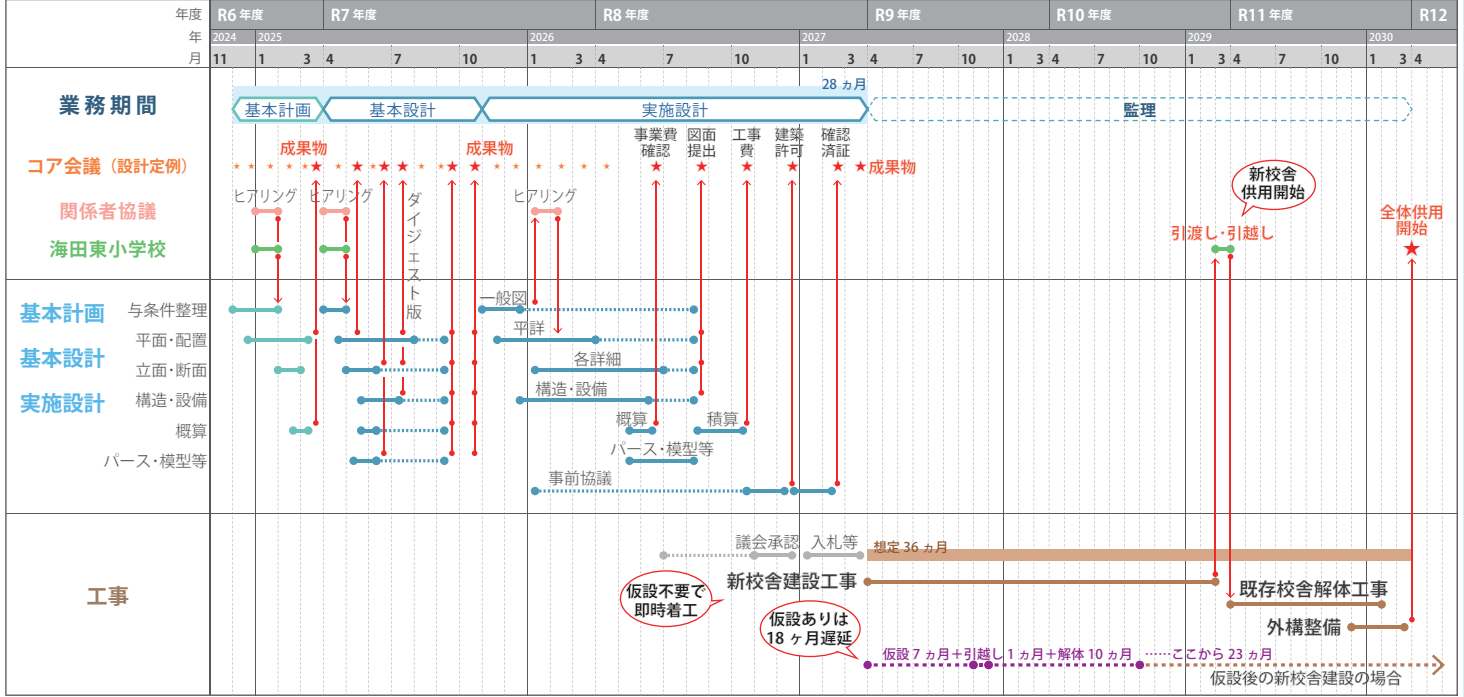
全体事業期間の短縮

《仮設校舎を建設しない計画》

- 仮設校舎が不要な建て替え計画とすることで、仮設校舎を建てた場合と比較して18か月短縮が可能です。

《建材のモジュール化・ユニット化・施工の乾式化》

- 現場作業を減じる工場生産品の積極採用をします。建材自体のユニット化も図り、現場作業を減らし、全体工期の短縮を図ります。また、作業の多い現場湿式工法に優先し乾式工法の建材を採用し、工期短縮を図ります。



全体事業費（イニシャルコスト）の圧縮

《面積縮減による建設費の削減》

- 5,900㎡の面積縮減プランにより、建設費を抑えます。
- 中心に据えた図書館を生かし、共用空間の省スペース化と適度な広がりを生み出すことで、合理的なコンパクトさと不整形な敷地形状を効率的に使い切る施設整備とします。
- 既存校舎に干渉しないエリアに、快適な新校舎を配置することで、仮設校舎の建設費と解体工事費、二度目の引越し費用を不要とし、大幅な事業費縮減を実現します。

形式	片廊下型	中廊下型	図書室一体型
平面			
動線	△：長い	○：短い	○：短い、視認性よい
共用面積	△：大きい	○：コンパクト	○：コンパクト、効率的
開放感	○：よい	△：廊下端部のみ	△：適度に配置
特別教室	△：遠い	△：遠い	◎：近い
総合	△：開放性高い	○：効率的	◎：効率的、機能的

《効率的な柱配置による躯体費の縮減》

- 建物中央の図書館が大きな空間特性を持つことから、スパン割検討により柱を省略し、躯体費の低減を図ります。

《適材適所な材料選定》

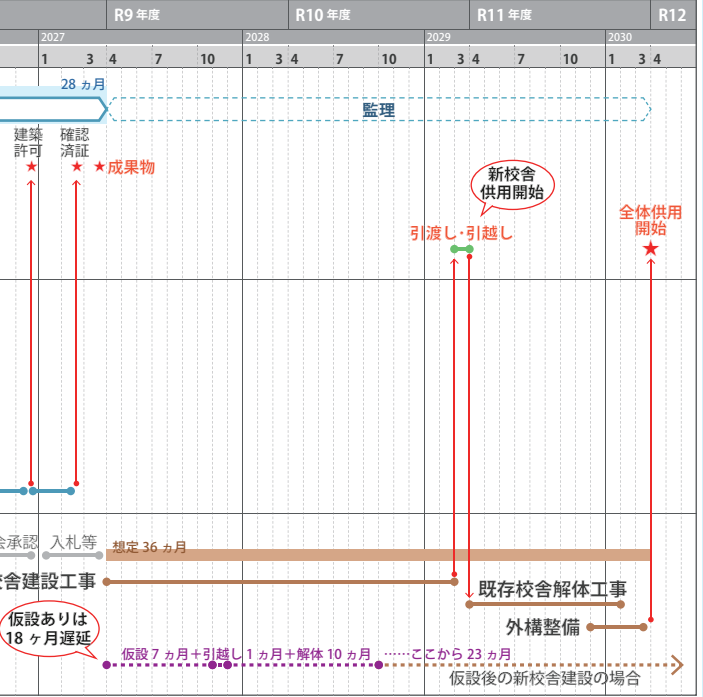
- 内装仕上材や衛生器具等は、競争原理の働く一般普及品の中から選定し、工事費コスト削減を図ります。
- 省エネ性、省メンテナンス性、更新性の高い機器や材料を効果的に採用し、コスト低減を図ります。

《フロントローディング型（前倒し）工程管理》

- 前倒し工程管理で、行政協議や調査結果等、不測の事態に備えた履行スケジュールを計画します。

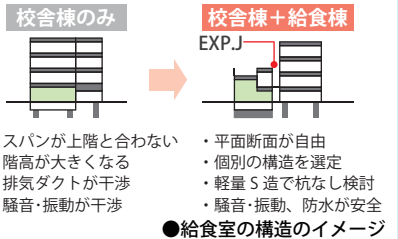
《BIMによる円滑な合意形成》

- ワークショップでは、各フェーズに併せた明確なテーマ設定、ビジュアル的な資料提供（パース、模型）を行い参加者が議論しやすい場づくりを支援し、円滑な合意形成を行い、手戻りなくスムーズに業務を進めます。



《給食室の特性に合った構法選定とコスト縮減効果》

- 親子方式への対応も含め、給食室は天井高さや排気ダクトにより制約が生じるため、教室群の下階に収めるのではなく、独立した2層の別棟とします。



《フロントローディングによる効果的なコスト管理》

- 設計の各段階で概算検証しコスト管理を行います。
- 基本計画：配置・規模・コストの比較検討します。
- 基本設計：概算により品質と仕様のバランスを図ります。
- 実施設計：精概算により工事発注が不調にならないように仕様を調整します。

